

同志社女子大学

生活科学会通信

No. 67

2026 年 6 月

同志社女子大学
生 活 科 学 会

変化し続ける日常とこれから

齋藤 朱未（生活科学会会長）

生活科学部・生活科学会が六十年を迎え還暦の年となりました。還暦は生まれた年の干支に還ることから暦が戻り、第二の人生を楽しむ節目のことと、この六十年でどのような生活への変化があったのかを振り返ってみたいと思います。

一九六〇～七〇年代の高度経済成長期には、冷蔵庫・洗濯機・テレビの「三種の神器」が普及し、家事の負担が軽減されました。また、都市部では団地やマンションの建設が進み、核家族化の進展とともに生活様式も変化しました。一九七〇年代以降はコンビニエンスストアが普及し、24時間いつでも買える物ができる環境が整いました。さらに、共働き世帯の増加に伴い、時短家電や宅配サービスの需要が拡大するなど、生活の効率化を支える仕組みが発展してきました。加えて、モノだけでなくコミュニケーションのあり方も大きく変化しました。自宅の固定電話や公衆電話が主な連絡手段であった時代から、ポケベル、携帯電話、スマートフォンへと移行し、場所を問わず連絡を取ることが可能になりました。インターネットの普及により、現在ではスマートフォン一台で情報収集やコミュニケーション、買い物までが手のひらの上で完結しています。こうした生活様式の変化は、単なる技術革新にとどまらず、大規模な自然災害や新型コロナウイルス感染症の流行といった社会的出来事にも影響を受けています。そ

の中で、安全・安心な生活のあり方が問い直され、テレワークやオンライン授業といった新たな「働き方」「学び方」が定着し、私たちの生活の前提は大きく変化しました。

大学における学び方も変化しています。私自身の経験を振り返ると、かつては教員が黒板に板書し、OHPフィルムに書きさされた資料を投影する授業が主流でしたが、現在ではパソコンを用いたプレゼンテーションが一般的となりました。さらに、コロナ禍以降は、ウェブ会議システムを活用したオンライン授業も広く実施されています。デジタル化が急速に進む現代においては、生成AIが提供する情報とどのように向き合うかが重要な課題となっています。学生だけでなく教員にとっても、AIに使われるのではなく、適切に活用するための知識と技能が求められています。

このように日本の生活はこの六十年で大きく変化してきました。少子高齢化が進む現代社会において、より持続可能で質の高い暮らしの実現に向け、今後も変化し続けるものと考えられます。これから、モノや情報を正しく理解し活用することと自らの生活を見直し、新たな価値観に基づいた暮らし方を主体的にデザインしていくことが求められるのではないのでしょうか。そのための力を養っていくことが重要であると考えます。

生活科学部短信

①食物栄養科学科の西村公雄先生（食品加工学）が2026年3月をもって退職されました。長年に渡り本学の教育・研究両面において多大な貢献をされました。

②4月より食物栄養科学科に奥西智哉先生（食品安全利用学）が新たに着任されました。

③生活科学部長は真部真里子先生が昨年度に引き続き任にあたられます。人間生活学科主任は藤本純子先生が2026年3月をもって任を終えられ、土井幸輝先生が4月より就任されました。食物栄養科学科主任は神田知子先生が昨年度に引き続き任にあたられます。

④第40回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率47.6%、全国管理栄養士養成施設（新卒）の平均合格率79.3%に対し、本学管理栄養士専攻新卒の平均合格率は92.9%（85名中79名合格）でした。

生活科学部の新しいスタッフの紹介



食品安全利用学研究室
奥 西 智 哉

このたび、生活科学部食物栄養学科の食品安全利用学研究室に着任いたしました。前職では、農林水産省所管の研究機関である農研機構食品研究部門に所属し、穀物科学や食品加工を中心に研究を進めてきました。特に米飯・米粉の加工特性や品質評価に取り組み、基礎研究と応用研究の両面から食品の可能性を探ってきました。基礎研究を深化させながら、それを応用に結びつけ、社会的価値に転換していくことを大切にしてお

り、この姿勢は今後の教育研究活動においても変わることはありません。着任後は、これまでの経験を生かし、米飯利用の高度化に向けた研究や地域特産品を活用した食品開発、さらにパンの加工性評価など、食の可能性を広げる取り組みを進めていく予定です。食品の加工・保存・流通技術は近年大きく進歩し、私たちの食生活はより便利で豊かになりました。これは、食に関する理(ことわり)と、それを支え

る技術が少しずつ発展してきた結果です。生活科学がめざす「豊かな社会の実現」に寄与する研究を展開し、食の未来を支える新たな知見につなげていきたいと考えています。管理栄養士をめざす学生が、食の理や技術を科学的に理解し、それを将来の現場で自然に活かせるような学びの場をつくらなければならないと思っています。管理栄養士には、栄養管理だけでなく、食品の安全性や加工特性への理解も求められると考え

ています。私自身、まだ学べきことも多い立場ですが、講義や実習の中で食品開発や産学連携の事例を紹介しながら、学生とともに「食が社会でどのような役割を担っているのか」を考えていければと考えています。学生がそれぞれの視点で食の世界に関心を広げ、自分なりの道を見つけていく姿をそばで見守りながら、共に成長していければ嬉しく思います。

ご退職の先生からのメッセージ

やっと終わった

西村 公雄

「生まれて三十年間は、育ててもらった期間。次の三十年間は、社会に恩返しする期間。そして、その後の三十年間は、自分のために時間を使う期間。」と高校生の時、先生から伺ったものです。「えらい悠長な話やなあ」と思っていたのですが、実際、七十歳を迎えて自分の人生を振り返ってみるとなんとこの区分けが私にはよく当てはまっていることかと驚かされま

す。私は、二十二歳で大学を卒業しました。多くの友が、就職して自立する中、大学院へ進学、博士課程に進みます。博士の学位取得は、二十七歳。国立大学で学んだ私は、授業料の一部を税金で賄ってもらいました。また、院生時代、奨学金として総額470万円を拝受。これを免除職に就いたおかげで返還せずにすみしました。これも税金からかと思えると私一人を博

士に育てるのに国庫からゆうに1000万円は、費やされたのではないかと思います。大学に職を得ましたが、なかなか成果がでず、ようやく独力で研究を行い論文を *publish* できたのが、二十九歳の時(やっと一人前の研究者として歩み出します)。それから四十年、大学人として歩を進めました。研究・教育・大学運営をこなす多忙な毎日を通すごします(でも、研究は、基本的に楽しかった。次は、どんなことが分かるかなといつも期待していました)。その甲斐あつてかコツコツ積み上げた研究内容は、二つの学会

から学会賞の形で評価されましたし、教育に関しても、学生からの評価は平均以上。また、300人近くのゼミ生(7名の大学院生も)に対しては、必死に獲得してきた各種グラントを元に思いっきり研究させてやることもできました。ゼミでの研究経験を活かして社会の中軸として活躍してくれている人も多くいます。大学運営に関しては、都合十二年間の部長職を通じて、両キャンパスのリニューアルのお手伝いもできましたし、次の大学を支えるよき人選びも一定限できたと思います。また、法人同志社の理事として法

人経営にも関わらせていただきました。こういった私の公の仕事が、どれだけ大学にあるいは、社会に貢献できたのか、育てていただいた先生方や納税者の期待に沿えたのかは計る由はありません。でも、この歳にして、ほっとしている自分がいることに気づかされます。ようやく時間を、自分のために使える歳に達しました。私的な面でも、十八代目となる孫にも恵まれ、家督を継いだ長男としての義務も果たせました。さあ、次、何しよう。意外と浮かれている自分がいるのです。

生活科学会 大会報告

第五十九回同志社女子大学生活科学会大会を二〇二五年七月二日（水）午後三時から楽真館一階ラーニング・コモンズにて村上恵先生を会長として開催しました。

総会では、二〇二四年度事業報告および決算報告、二〇二五年度事業計画および予算についての審議を行い、承認されました。

続いて、医療法人財団今井会足立病院院長澤田守男氏による講演会「女性のライフステージと健康…産婦人科医が伝える、健やかな未来への準備」を開催しました。

講演では、女性のライフステージをホルモンの観点からご説明いただき、女性特有の悩みやトラブルに対する改善策を教えてくださいました。また、常に自分の健康を相談できる、かかりつけの産婦人科医を持つことが大切であると話されました。



見学会報告 「おたべ手作り体験」

先日、おたべ本館で工場見学と手作り体験に参加し、「おたべ」の製造過程に触れました。参加した理由は、普段から親しんでいる京都のお土産がどのように作られているのかを実際に見て学びたいと思ったからです。

工場見学では、成形から箱詰めまでの工程をガラス越しに見学しました。特に印象的だったのは、材料へのこだわりです。米や水といった基本の素材が一つ一つ厳選されており、身近で有名なお土産として親しまれているおたべが、手間をかけて丁寧に作られていることを知り、その品質への意識の高さに感銘を受けました。

手作り体験では、蒸したての餅生地をこねて味付けし、三種の餡を詰めて三角に成形する工程に挑戦しました。成形の際、きれいな三角形に整えるのは想像以上に難しかったですが、スタッフの方が優しく丁寧に教えてくださったおかげで、自分だけの特製おたべを完成させることができました。

製造現場の見学と体験を通して、おたべが多くの人に愛され続ける理由を実感し、ものづくりの魅力を改めて感じる貴重な時間となりました。

（二〇二五年度SK卒）



研究会報告 「京町家で学ぶ正しい珈琲講座」

一〇月初旬、「草と本」で開催された珈琲講座に参加し、日々の暮らしを豊かにする珈琲の奥深さを学びました。はじめに講師の方より珈琲ができるまでの概要をご説明いただき、そのあと実演を交えながらパードリップのコツを教えてくださいました。実演では異なる焙煎度合いの豆を使った三種の珈琲を飲み比べ、講師の方のコメントを頼りにそれぞれの個性を感じ取り、実験のような楽しさがありました。お話の中では特に「美味しい／不味い」は「主観」なので、豆の産地や煎り方を変えてみたり、ブレンドしてみたりして、自分が美味しいと思える珈琲を見つけてみてください」といった受講者に寄り添ったコメントが印象的でした。

また、参加者からの質問も活発で「カフェオレにするならどの豆がミルクと相性が良いか」「ブレンドコーヒーとはそもそもどういうものなのか」など、普段何気なく飲んでいる珈琲についてもう一段深く知る機会を得ることができました。

このほかにも在学生との交流で懐かしい気持ちになったり、学生時代にお世話になった先生と再会し予想外の喜びがあったりと、生活科学部という共通の土壌で育った者同士の穏やかな雰囲気心地よく、学びと温かさが詰まったひとときを過ごしました。今後もこのような研究会が開催される際はぜひ参加したいと思います。

（二〇二三年度SK卒）



同志社女子大学での学び

人間生活学科 4 年

私は、住環境やまちづくりに興味を持ち、人間生活学科に入學しました。本学科では、生活を取り巻く環境について幅広く学ぶことができ、特に実習を通して実践的に考える力が身につく

く点に魅力を感じています。1・2 年次には住居や生活に関する基礎的な知識を学び、課題制作などを通して理解を深めました。

3 年次からは都市計画研究室に所属し、奈良市きたまちを对象としたまちづくりの提案に取り組みました。現地調査やヒアリング、大勢の前での発表はい

ずれも初めての経験であり、進め方も分からない中で手探りの状態から試行錯誤を重ねました。戸惑いや難しさを感じた場面も多くありましたが、チームで協力しながら取り組む中で徐々に理解を深めていきました。その結果、提案が評価されたことは大きな達成感となり、自身の成長と自信につながりました。

これらの学びを通して、私は「生活者の視点で空間を考えること」の重要性を強く実感するようになりました。現在 4 年次となり卒業研究に取り組んでいます。これまでの 3 年間で得た知識や経験を活かしながら、より深い学びへとつなげていきたいと考えています。

また、初めての一人暮らしで不安から始まった大学生活でしたが、友人にも恵まれ、充実した日々を過ごしています。このような日常の経験もまた、「暮らし」を考える視点を深めるきっかけになっていると感じています。これからも、人々の暮らしを豊かにする住環境づくりに関わっていききたいです。

食物栄養科学科食物科学専攻 4 年

食物科学専攻は、豊富な実習・実験を通して、食を科学的な視点から捉える点に特徴があります。中でも印象に残っているのは、2 年間にわたって履修した調理科学実習です。実習では「おいしさ」の背景にある

食物の科学的特性や、美しい見た目を実現するための調理上の工夫について学びました。和食など幅広い分野に触れ、それぞれの歴史や特徴についても理解を深めることができました。

また、中学校・高等学校教諭一種免許状を取得できる点も、本専攻を選択した理由の一つです。教職課程における授業や実

習を通して、食に限らず、衣・食・住を総合的に扱う家庭科教育に携わることの魅力や、生活全体を捉える学びの面白さを実感しています。さらに、現代の子どもや教育を取り巻く状況を踏まえながら、どのような教育が求められているのかを考え、授業を構想していく過程から、多くの学びを得ることができました。

現在は食品機能学研究室に所属し、食品に含まれる抗酸化成分の定量分析に取り組んでいます。本研究室を選んだきっかけは、3 年次に履修した食品機能学実験です。果汁飲料に含まれる抗酸化作用や加工食品に含まれる食品添加物の定量など、身近な食品を対象とした実験を通して、日常の食に対する見方が大きく変化しました。今後は、

これまでに培った知識と技術をさらに深化させ、卒業研究に真摯に取り組んでいきたいと考えています。

本専攻で得た多角的な学びを将来に生かすとともに、一日一日の積み重ねを大切にしながら、より一層成長していきたいです。

生活科学研究科食物栄養科学専攻 2 年



私は現在、生活科学研究科食物栄養科学専攻に在籍し、修士 2 年を迎えました。ヒトを対象とした研究に取り組む中で、地域の方々と直接対話する機会が増え、学びと刺激の多い毎日を通していています。管理栄養士としての学びを土台に現場の方々と向き合う中で、研究がいかに多くの方々の厚意に支えられているかを痛感し、人とのつながりの大切さを改めて実感しています。

また、研究室での日常も私を支える大きな原動力です。昼食や夜間授業前の夕食は同期と共に囲み、日々の大切な息抜きとしてしています。限られた時間の中でも食事のひとつを共有することで、心身ともにリフレッシュし、互いに支え合いながら充実した大学院生活を送ることができています。

院生となり、学会という大きな舞台にも挑戦しました。もともと人前で話すことに苦手意識

があり、準備段階では資料の細部に至るまで何度も推敲を重ね、葛藤する日々が続きました。当日は強い緊張に包まれ、周囲を見渡す余裕をなくしそうにもなりましたが、夜遅くまで練習に付き合ってくれた同期や、励まし続けてくれた先輩の存在が背中を押してくれました。この経験を通して、発表の難しさだけでなく、一つの成果を形にするために支えてくれる環境への深い感謝を実感しました。

大学院での学びを通して培った、一歩踏み込んで考える力や多角的な視点は、今後の歩みにおいて大きな財産になると確信しています。これからも、目の前の課題に誠実に向き合う姿勢を大切にしながら、より一層学びを深めていきたいと考えています。

『同志社女子大学生活科学』第五十九巻・内容

(二〇二六年発行)

学会では年一回会誌『同志社女子大学生活科学』を発行しています。

二〇二五年度は第五十九巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円(送料込み)をお振込みの上お申し込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもございます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会 Web サイトにてご確認ください。原稿締切りは毎年十月中旬です。

黒澤祝子先生を偲んで……………三浦 邦子

〈原著論文〉

「遠藤ミチロウ」が創造した幻想空間……………諸井 克英

対人可能性に関する自己評価と親友視点からの評価の推測との関連性……………諸井 克英

—— 女子大学生の場合 ——……………諸井 克英・鳥野なつみ

〈研究ノート〉

食事に伴う精神的発汗と主観的嗜好性および情動反応との関連……………森 紀之・中村由依子・松尾 彩音

〈資料〉

名称に「百合」がつく植物(その1)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その2)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その3)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その4)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その5)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その6)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その7)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その8)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その9)……………森田 潤司

名称に「百合」がつく植物(その10)……………森田 潤司

2025 年度生活科学会決算書

(自 2025 年 4 月 1 日～至 2026 年 3 月 31 日)

(単位：円)

□経常会計

	項目	予算	決算
収入	会費	3,012,000	2,973,000
	寄付	0	0
	利息	3,000	19,428
	雑収入	51,000	51,000
	研究会運営費	15,000	5,500
	見学会所要費	0	0
	収入 計	3,081,000	3,048,928
支出	大会運営費	140,000	124,517
	研究会運営費	170,500	111,430
	見学会所要費	38,400	28,800
	備品費	0	0
	印刷費	650,000	555,277
	通信費	250,000	227,490
	交通費	3,000	960
	文具雑品費	70,000	60,117
	アルバイト費	700,000	726,255
	雑費	20,000	18,497
	租税公課	2,000	1,955
	奨学金運営費振替	600,000	600,000
	支出 計	2,643,900	2,455,298
	当年度収支差額	437,100	593,630
	前年度繰越金	13,546,330	13,546,330
	次年度繰越金	13,983,430	14,139,960

□奨学金会計

	項目	予算	決算
収入	利息	9,000	22,477
	寄付	0	0
	奨学金運営費	600,000	600,000
	収入 計	609,000	622,477
支出	奨学金	600,000	600,000
	支出 計	600,000	600,000
	当年度収支差額	9,000	22,477
	前年度繰越金	19,763,846	19,763,846
	次年度繰越金	19,772,846	19,786,323

奨学金のお知らせ

生活科学会では、本学生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。

生活科学会運営委員 (2026 年度)

(敬称略)

教 員	齋藤 朱未 (会長)	山本 寿 (副会長)
	平光 睦子	奥村 仙示
	奥西 智哉	高田 大輔
		塚田由佳里
卒業生		
院 生		
在学生	人間生活	食物科学
	4 年次	管理栄養
	3 年次	
	2 年次	
	1 年次	
事務局	尼川佐知子	

研究室だより

服飾文化（平光）研究室

服飾文化研究室は新たに12名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。3回生はファッション産業の仕組みや流れを学び、4回生は就職活動と並行して、各々興味をもったテーマで卒業論文に取り組みます。多忙な日々を過ごしていく中で、皆が健康に、そして充実した一年を過ごせるよう、精一杯サポートし共に学んでいきたいと思っています。

（助手 林 ）

被服造形（藤本）研究室

藤本先生と4年生15人、3年生12人で、各自が設定した研究テーマに基づいて試行錯誤を重ね、自分らしい表現を追求しています。また、メンバー同士で意見交換を行い、お互いの作品や考えに刺激を受けながら理解を深めている点も本研究室の特徴です。個性豊かなメンバーと、より完成度の高い作品・論文作りを目指して活動していきます。

（ゼミ生一同）

居住環境（奥田）研究室

今年度は10名の3回生を迎え、計27名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生と院生は、卒業論文、修士論文のそれぞれ

れの研究テーマに積極的に取り組んでいます。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様が充実した時間を過ごせるよう精一杯サポートしていきたいと思っています。

（助手 宮田 ）

居住空間（塚田）研究室

今年度は12名の3年生を迎え、28名（4年生16名）になりました。これからゼミ生の皆様は、塚田先生のご指導の下、それぞれの研究や課題、就職活動に取り組んでいきます。個人で進めることも多いですが、学生間のコミュニケーションを大切に活気あるゼミ作りをしてもらえたらと願っています。皆様が充実した一年を過ごせるようサポートに努めます。

（助手 水野 ）

プロダクトデザイン（村井）研究室

今年度は12名の3年生を迎え、計27名になりました。4年生は卒業研究のテーマに向き合い、日々悩みながらも一生懸命励んでいます。一昨年度・昨年度と2年続けて京都市の四条通地下道アート展で3年生のデザインが採択され、制作作品が展示されるなど、充実した学びの機会を得られました。より賑やかになった研究室で、助手として一層のサポートに努めて

参ります。

地域計画（齋藤）研究室

地域計画研究室は、今年度新たに6名の3回生を迎え、4回生と共に計16名でスタートを切りました。3回生は文献やグループワークを中心に、4回生は卒業論文に向けて調査を進めるなど、各自の研究テーマに積極的に取り組んでいます。学生の皆様が実りある一年を過ごせるよう、私も微力ながら精一杯サポートしていきたいと思っています。

（助手 西澤 ）

都市計画（麻生）研究室

今年度は3回生12名を迎え、21名となりました。3回生は奈良きたまちエリアを対象地とした民学官連携のまちづくりプログラムに参加し、地域課題解決に向けての提案を現地で行います。4回生は卒業論文執筆にむけて研究テーマを絞り、先行研究調査や資料収集を進めています。

皆さんがより良い環境で学びを深められるよう、私も努めて参ります。

（助手 榎坂 ）

ユニバーサルデザイン（土井）研究室

新たに12名の3年生を迎え、計27名のゼミ生と大学院生2名とともに、本年度が始まりました。四

年生は、触る絵本や触知図付ハザードマップの作製、スタイラスによる操作性の評価等、それぞれのテーマに取り組んでおります。私も土井先生と共に精一杯サポートしてまいります。

（助手 民田 ）

調理学（村上）研究室

本研究室は食物栄養学科の11名と村上先生、助手の林さんの13名で活動しています。

今年度は4チームに分かれ、「アルカリイオン水が麺の調理に及ぼす影響」「ほうれん草のビタミンC量に及ぼす調理条件の影響」「みりんの添加が高野豆腐の食塩の浸透に及ぼす影響」「料理酒の調理特性」の研究を行っていく予定です。

ゼミ生一同、研究に意欲的に取り組み、その成果を発表できるよう頑張つてまいります。

（ゼミ生一同）

調理科学（真部）研究室

今年度も明るく元気なゼミ生11人が研究室に仲間入りし、卒業研究を開始しました。本年は雑節だしのうま味成分や醤油とみりんの香り、またはその減塩効果について4テーマに分かれ、それぞれ官能評価や機器分析に取り組みます。1年間を通して学生たちが新

たな学びを受けられるように、充実した研究室での生活を懸命にサポートしてまいります。

（助手 丹下 ）

栄養教育学（片井）研究室

今年度は3名のゼミ生を迎え、片井先生の熱心なご指導のもと、卒業研究がスタートしました。卒業論と就職活動、国家試験に挑戦していく3名を、先生と共に支え、応援していきたいと思っています。卒業生の皆様は近況報告等、在学生の皆様は勉強や進路の相談等、是非お気軽に研究室にお立ち寄りください。

（助手 吉崎 ）

実践栄養学（小切間）研究室

今年度は、学童期、成人期、高齢期のライフステージに分かれ、共同研究先の先生方にもご指導いただき研究を行っています。ゼミ生同士で助け合い、経験を積み重ねて成長に繋がっていきなす。

ゼミの他に就活等の相談にも乗ってくださる小切間先生、日々サポートしてくださる助手の藤原さんと実りある1年にしていきたいと思っています。

（ゼミ生一同）

基礎栄養学（鈴木）研究室

今年度は、鈴木先生と新しい助手の三宅さんと学生12名（修士1名、食物2名、食管9名）で6期

目の研究活動をスタートさせました。今年度も食物・食管の学生がともに卒業論文に取り組み、それぞれの興味や関心を大切にしながら、研究テーマに向き合い学びを深めていきます。四年間の集大成として、日々前向きに研究活動に励んでいきます。(ゼミ生一同)

公衆衛生学(吉田) 研究室

今年度で吉田香先生がご退職されますので、ゼミ生の配属はありません。研究室整理など慌ただしくも寂しさを感じる1年になるかと思いますが、助手として精一杯サポートさせていただきます。10月24日(土)の生活科学部開設60年記念講演会の折に、研究室にて卒業生の集いを予定しておりますのでぜひお越しください。詳しくは後日ご連絡させていただきます。(助手 廣谷)

公衆栄養学(今井) 研究室

いつも笑顔でえむきにっしようにけんめいともに支え合いくひょうにむかつてとしも頑張ろう！(ゼミ生一同)

給食経営管理学(神田) 研究室

今年度は給食経営管理学研究室にゼミ生11名が所属することになりました。神田先生のご指導の下、3つのグループに分かれて研究を進めて参ります。

就職活動や臨地実習、国家試験等で多忙の一年になると思いますが、実りある学生生活を過ごして欲しいです。

全員笑顔で卒業出来るよう、微力ながらも精一杯サポートしていきたいと思えます。(助手 河合)

臨床病態学(高田) 研究室

二〇二六年度の当研究室は11名のゼミ生が所属することになりました。もちろん学生の反応をみつづけてはいますが、GitHubやStackなどのICTを使いながら、疫学・データサイエンスまで、栄養の分野からもAIやデータサイエンスに明るい学生を世に出せるよう尽力して参りますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。(高田大輔)

臨床栄養学(奥村) 研究室

奥村先生は着任から5年目を迎えられるました。また、今年度より助手の夏目が着任いたしました。今年度は、第4期生11名(4年生)、大学院生7名(修士1年生

3名、修士2年生4名、助手1名の計20名体制になりました。学生

の皆様が楽しく学びながら、研究や勉学に集中できる環境づくりに尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(助手 夏目)

生化学(倉橋) 研究室

今年度は食物4名・食管1名の新しいゼミ生を迎えました。現在ゼミ生たちは、倉橋先生のご指導のもと、卒業論文に向けて試行錯誤を重ねつつ助走をつけているところ

です。勉強や就職活動にも主体的に向き合い、それぞれの未来へと手を伸ばしています。ゼミ生

にとって実りある一年となるよう全力で支え、ともに走り抜けていきます！(助手 川口)

食品安全利用学(奥西) 研究室
今年度より奥西先生をお迎えし、研究室名を「食品安全利用学研究室」(旧：食品加工学研究室)へと改称しました。

本年は初年度のためゼミ生の配属はなく、奥西先生と助手の2名

による新体制でスタートしています。来年度から配属されるゼミ生の皆さんを迎える準備を進めつ

つ、より充実した研究活動が行える環境づくりを精一杯サポートして参ります。(助手 山崎)

食品微生物学(川崎) 研究室

食品微生物学研究室はゼミ生9

名を迎えました。今年度の卒業論文テーマは笹の葉の抗菌性、自家培養発酵種の微生物解析、味噌中のGABAについての3つとし、各チーム研究活動に取り組んでいます。学生生活最後の1年で大きく成長し卒業できるよう、川崎先生と共にサポートしてまいります。卒業生の皆さまもぜひ研究室にお立ち寄りください。

(助手 岡田)

食品物性学(山本) 研究室

今年度は11名の学生が本研究室に配属されました。今後は3つのグループに分かれて、自分たちで実験計画を立てながら研究を進めていきます。山本先生は1年前に現役を退職し、特任教授としてい

つそう研究指導に力を入れられている様子です。ゼミ生がスムーズに研究できるよう、助手として精一杯サポートしていきたいと思

います。(助手 小池)

食品栄養学(森) 研究室

今年度、食品栄養学研究室は11名の学生と2名の大学院生を迎えました。

昨年度までゼミ生だった大学院生は頼もしい先輩となり、4年生も和気あいあいとした雰囲気

に活動してくれています。

授業や研究、就職活動、国家試験と多忙な1年ですが、仲間と支え合いながら、残りの大学生活を楽しんでもらえると嬉しく思います。(助手 橋本)

食品機能学(杉浦) 研究室

今年度、食品機能学研究室は11名のゼミ生と1名の院生を新しく迎えました。就職活動で多忙な中、慣れない分析機器の扱いに格闘しつつ、互いに協力し合いながら与えられた課題に積極的に取り組んでいます。彼女たちの学生生活最後の1年が楽しく充実したものになるよう、私自身も日々成長しながら、精一杯サポートしていきたいと思えます。(助手 荒木)

運動生理学(米田) 研究室

運動が心身に及ぼす影響について、測定機器を用いるなどして身体の変化を感じながら学びを深めています。日常生活に身近な運動を追求する中で、研究の面白さを改めて実感しています。(卒業生)

生活科学会 2026 年度総会・講演会案内

■ 総 会

日時：7 月 1 日（水）15：00～15：30

場所：楽真館 1 階 ラーニング・コモンズ

議題：会長挨拶

2025 年度事業報告および決算報告

2026 年度事業計画案および予算案審議

※今年度は、総会と講演会を
別日に開催いたします。

■ 生活科学部開設 60 年記念講演会 (生活科学会協賛)

日時：10 月 24 日（土）10：00～11：00

講師：石村由起子氏（くるみの木代表）

一般公開／参加費無料（申込不要）

* 講演会終了後、茶話会（ランチ）を予定しています。

* 引き続き同志社女子大学創立 150 周年記念式が、
12：30 から、栄光館ファウラーチャペルにて行われ
ます。

見 学 会

はじめてでも楽しめる“手織り体験”

内 容 小型ながら本格的な織機をひとり 1 台つかって
テーブルセンターを織り上げ、出来上がった作
品を記念にお持ち帰りいただきます。会場の西
陣織会館では西陣織の歴史を伝える貴重な展示
品も紹介しています。京都の代表的な伝統産業
のひとつ、西陣織の世界に触れてみませんか。

日 時 2026 年 9 月 26 日（土）10：30～11：30

場 所 西陣織会館

京都市上京区堀川通今出川南入ル

京都市営地下鉄烏丸線 今出川駅下車

徒歩 10 分

最寄バス停「堀川今出川」下車 徒歩 1～2 分

集合時間 10：20 までに現地集合（西陣織会館 1 階受付）

参 加 費 無料

定 員 30 名

受付期間 2026 年 7 月 13 日（月）～17 日（金）
（要申込、申込多数の場合抽選となる可能性が
あります）

研 究 会

京都ブライトンホテルで学ぶ テーブルマナー

内 容 分かっているようで迷ってしまうテー
ブルマナー。ホテルでフランス料理の
フルコース（8,000 円相当）をいただ
きながら正しい作法を身につけて、ス
マートに食事を楽しみませんか？

日 時 2026 年 9 月 18 日（金）12：30～14：45

場 所 京都ブライトンホテル

京都市上京区新町中立売

地下鉄烏丸線 今出川駅 6 番出口より

徒歩 8 分

ホテル⇄地下鉄烏丸御池駅間のシャト
ルバス有

集合時間 12：15 までに現地集合
（ホテル 1 階ロビー）

参 加 費 4,000 円

定 員 30 名

受付期間 2026 年 7 月 13 日（月）～17 日（金）
（要申込、申込多数の場合抽選となる
可能性があります）

問い合わせ先

同志社女子大学生生活科学会

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

(E-mail) hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp

(TEL) 075-251-4211

(Web サイト)

<https://hlgakkaidwcla.com/>



申込方法

研究会・見学会のお申込みは、生活科学会 Web サイ
ト内申込フォーム、E-mail、ハガキのみとさせていただきます。
必ず、氏名・住所・メールアドレス（お持ちで
ない方は電話番号）・学籍番号もしくは卒業年を明記し
てください。

●今年度は、全会員の皆様に『生活科学会通信』をお届けしています。